

1 総括

フリースクールと放課後デイサービスの融合プランで、教育と療育の双方向からの支援ができた。特別支援学校不登校生徒も安心して通信制高校への入学を決められた。

能登支援が拡大し、ボランティアネットワークや子ども食堂と協働した支援をすることができた。ボランティアに参加した生徒の成長も著しく、支援される立場から支援する立場への転換が成長の足がかりになることが実感できた。

教習所の TPA 検査の解析の業務を受託し、全国からの検査結果の分析業務を行うこととなった。

2 子どもの学習支援事業「いちご塾」（鹿沼市委託事業）

(1)実施日及び場所

毎週火曜日：南摩コミュニティーセンター

毎週水曜日：鹿沼市民情報センター

毎週土曜日：東部台コミュニティーセンター

毎週日曜日：菊沢コミュニティーセンター

(2)内容

- ・教科指導 受験指導
- ・芸術活動 音楽 絵画 工芸 コミュニケーション
- ・プログラミング・パソコン指導 ボードゲーム
- ・スポーツ ストレッチ体操 卓球
- ・不登校相談等教育相談

(3)講師

教職員退職者、塾講師、大学生 20名

(4)児童生徒利用者数

小学生46名 中学生51名 高校生5名 計 102名

(5)成果と課題

- ・今年度情報センターの参加者が多かった。パソコン室の利用に慣れ、前後半の利用時間を有効に使い、教科学習とのバランスを取りながら学習することができた。学習意欲が乏しい児童生徒に対しては、カウンセリングを実施した。
- ・南摩コミセンも参加者が安定していた。小学校低学年児童や支援学校に進学希望の生徒がいたので個別のニーズを取り入れ、楽しく学習に参加できるようにした。子ども食堂の協力で食事提供を行うことができた。
- ・東部台コミセンでは、参加者の減少がみられた。土日開催についてはアンケートを実施し、説明会を持ち、金曜日開催に振り替えた。
- ・菊沢コミセンは参加者が少なかったが、保護者の希望で存続することとなった。
- ・ロータリークラブ等の支援を受け、食料品、日用品、文房具など緊急支援物資の配布ができた。
- ・事業が8年目に入り、児童生徒との信頼関係が深まった。
- ・中学生の時に学習支援でかかわった生徒が高校入学後も学習相談に訪れたので前年の担当講師が対応を継続した。
- ・本年度も年度の切り替え時期に休まず開所したので学習習慣が継続できた。

3 フリースクールでの学習指導

(1)活動場所

- ・上殿町きずなプラス

毎週木 10:00~13:00 調理実習 読書会 カード会

第2, 4土曜日 音楽練習 各種ワークショップ 親の会

毎週日曜日 地域行事 子育てサークル交流会

- ・各種スポーツ施設 スイミング 卓球
- ・ほわっと自然村 農業体験 アロマセラピー 宿泊体験 数学 工芸

(2) 講師

金子幸子 福田精 藤沼清美 反町真帆 加藤詩乃 上本真澄

その他 Epic 担当講師

(3) 生徒 利用者

小中学生 3名 高校生 15名 専攻科 6名 計24名

(4) 成果と課題

- ・不登校、ひきこもり、高校中退者が CCV に通うことに慣れるまでフリースクールに在籍 し受診後受給者証を取得、福祉分野に移籍し、手厚い支援が受けられるようになった。
- ・高校卒業後、専門学校、CCV 専攻科に進学。B 型事業所に就労
- ・県のフリースクールと教育委員会の連携協議会が充実し、各市町村にも教育機会確保法が行き渡ったためフリースクールが出席認定を取りやすくなった。
- ・コブルと連携したひきこもり支援事業では、市民活動支援センターのサポートにより、社会福祉協議会と連携した活動が展開できるような組織づくりができた。

3 あおぞら学習支援（運転免許取得支援事業）

(1) 実施日 場所

毎週土日 CCV Epic その他各所個別対応

(2) 講師

学園講師 学習支援講師

(3) 利用者

- ・長期利用者 オンライン 2 名 対面 4 名、うち鹿沼に移住 2 名
- ・短期利用者 月平均 2 名
- ・一回 60 分から 90 分の個別指導

（おおよそ 45 点を 7 回とれるようになるとつばきプランに入ることができる。）

(4) 成果と課題

- ・短期利用者は教習所入所中に支援を行い全員免許取得ができた。
- ・長期利用者 1 名は、滞在 1 年で取得できたが、もう 1 名は、不安が強く、期間が切れてしまい、再度教習所で免許を取り直すこととなった。保護者との話し合いで、引き続き支援を継続することとなった。
- ・遠方から通うことが難しく、定期的な学習ができない場合は、成果が出にくい。オンラインで取り組むか、就労支援、生活支援を含めて、移住して支援を受けることで成果が出ている。
- ・入所時に保護者、本人と免許取得意欲について綿密に話し合うことが必要である。本人の意欲や生活環境などを考慮したうえで入所を決めていく。

4 多様性を認め合うまちづくり

(1) ヒノキラボ開設

- ・就労・移住相談（家族関係の調整・相談）
- ・被災者支援「のとカフェ」実施
- ・ヒノキオイル蒸留（B 型就労支援）
- ・社会福祉協議会と連携した居場所づくり
- ・シェルター機能

(2) ほわっと自然村との連携

- ・野草茶づくり 綿栽培、自然農（火・木１０時～１５時）
 - ・フリースペース事業参画
 - ・イベント活動 ワークショップへの参加・
 - ・親の会「NEW 生き方塾」
- （３）こども食堂との連携
- ・孤食防止 コミュニケーション、交流の場づくり
 - ・奥能登支援活動
- （４）住居提供と生活支援
- 短期宿泊 金子シェアハウス ヒノキラボ
- （５）成果と課題
- ・ビレッジづくりに興味をもつ移住希望者とイベントを開催し、移住後の目指す活動のサポートを行った。移住者の方々には、ヒノキラボ、子ども食堂、ほわっと自然村の農業、能登カフェなどで地域の活性化と若者の就労支援に尽力していただいた。
 - ・奥能登被災地関係者との交流を持続させるため、栃木ボランティアネットワークと連携し、新たに奥能登金蔵地区の支援をした。現地の熟成味噌を使ったおかしづくりなどを試み支援の継続を具体化した。
 - ・アロマ蒸留は、森林資源を有効に使う活動として評価された。また、作業自体が芳香浴となることからメンタル面に不安をかかえる利用者に効果的な作業として鹿沼市のひきこもり支援事業の居場所に認可された。